

エッセイ :

精神文明と物質文明の融合について

Essay :

The Harmonization of Spiritual and Material Civilizations

松澤 裕之

MATSUZAWA Hiroyuki

Keywords: Harmonization of Spiritual and Material Civilizations, Manga-esque Art, Marker Drawing, Art, Western Art, Japanese Art, Painting, Ukraine, Sandro Botticelli, Marsilio Ficino, Peace, Music, Eastern Art, Kyoto, Paris, Freedom, 精神文明と物質文明の融合、マンガチックなアート、マーカー画、芸術、西洋美術、日本美術、絵画、ウクライナ、サンドロ・ボッティチェッリ、マルシリオ・フィチーノ、平和、音楽、東洋美術、京都、パリ、自由、

私の絵の世界

21 世紀の新しい文明の創造とは、人類の良心によって精神文明と物質文明が調和一致し、東洋文明と西洋文明が融合された世界であり、自然の美と人工の美がうまく調和した美の世界を地上に造ることです。私は、そういう新しい理想世界の建設を目指して、愛と美と健康という三つをテーマにして、藝術家として新しい文明の創造活動を行なっています。

21 世紀の美の理想世界は、財産、人種、国籍、学歴、職業、社会的地位、宗教などに関わりなく、自由で平等で、病気や貧乏や闘争のない、愛と思いやりのある社会です。

宗片邦義会長の思想について 註(1)

宗片会長の言葉「人類はその進化の過程において、今やいわば世界文化の誕生を迫られているのではないだろうか。それはこの世界の中のいかなる文化が、他のいかなる文化やその一部と結合融和するものかもしれない、あるいはかつて実現を見なかった未曾有の思想であるかもしれない。この文化的進化は多面的な開花を見せるであろうが、その根底には「調和」の種子を宿している筈である。世界中の全ての人々に本会への入会をお勧めする。それは国境に見張りのいる閉鎖的な国ではなく、同じような考え方をする、何よりも平和を愛する人々の集まりである。そして未来にはヴィジョンがある……同じ人間の仲間として他の全ての人々とより良い関係をつくるという……。われわれは全ての人々に懇願する……戦いと競争をやめて欲しいと。自己中心の考えはもはや時代遅れの過去のものとしなければならない。もっとよく人間を理解しなければならない。もしもわれわれが、芸術・文化・医学・経済・政治を通してよりよい人間理解を得られるなら、それはこの目的達成への大きな推進力となる。」

イタリア語で言うとアルモニア（調和）の思想（ルネサンス芸術）と戦争を永久に放棄した、という二つの点にとっても感動しました。

また、世界全体が、同じ空気を共有していて、世界人類も生命も一つであるということ、それゆえに戦争はバカらしいということです。宗片会長の世界は一つであるという考えがとてもよいと思います。

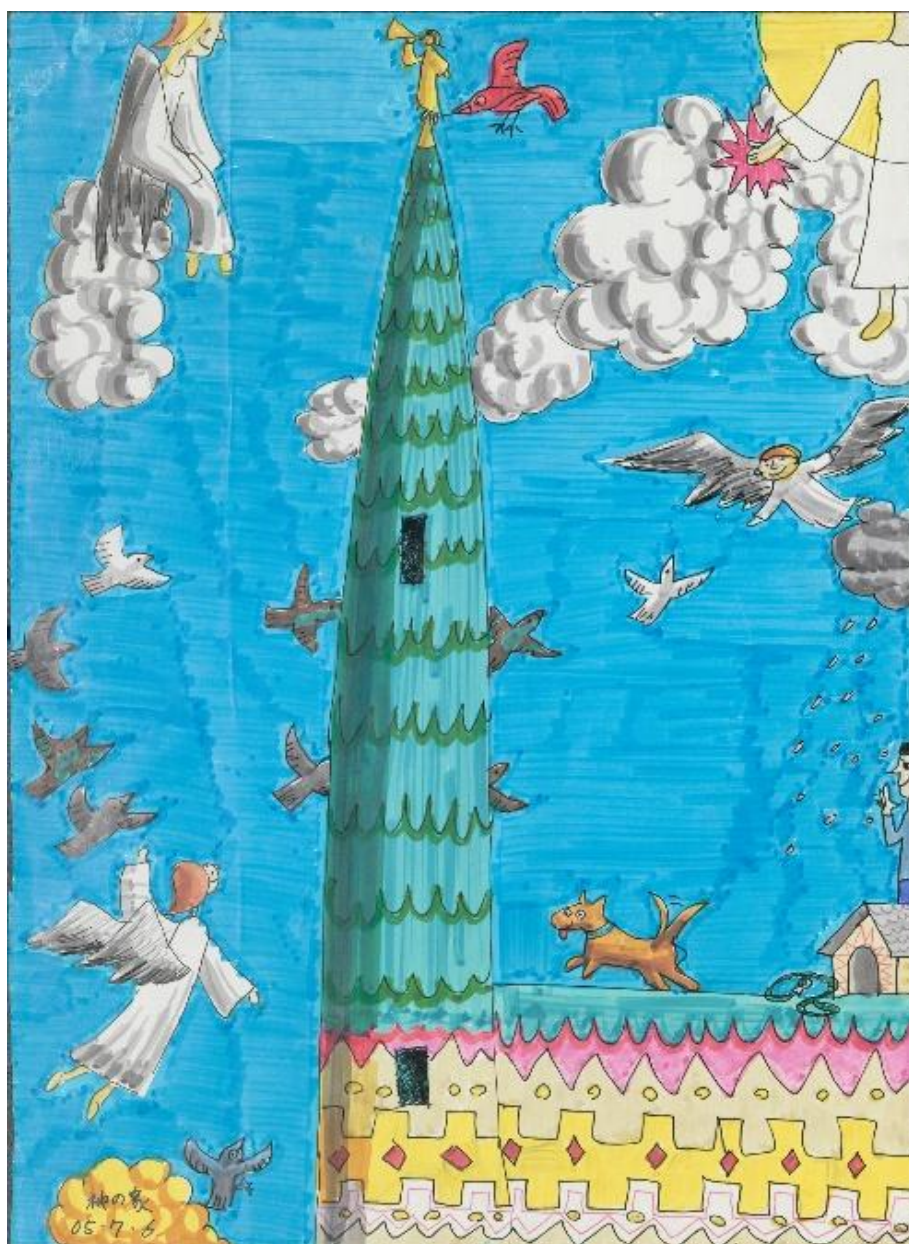
《天空の家》

本作は、天空と地上とが接する世界を描きました。

楽園は、この世に、それも私たちの心の中にあります。天空の家では、大自然が見守る中で、柴犬のジローが、鎖を外され野に放たれて、自由になって喜んでいます。天使たちが、大自然の呼びかけと祝福に応えています。鳥たちが自由に空を舞い、私たち人類を天空の楽園へと導く役目を果たしています。この世の楽園とは、こんな光景でしょうか。

教会の尖塔の波模様は、フィンランドの森の木造教会の屋根を、また、教会の壁の鮮やかな色彩と模様は、チェコ・プラハの建築タイル装飾をイメージしています。

私たちの心の中には、いつも地上の世界（現実）と天空の世界（楽園）が共に存在しているように、私は感じます。



《ボッティチェリ作「春」のサインペンによる模写》

イタリア・ルネッサンスの巨匠サンドロ・ボッティチェリの傑作《ラ・プリマヴェーラ》をサインペンによって模写してみました。この名画を見ていると、自分の描いた模写を『春の創造者たち』と名付けたいくなります。

画家の傑作では、哲学者フィチーノのネオプラトニズムが、絵画化されています。中央にるのが地上のヴィーナスで、春になると様々なものを産み出すため、おなかに子を宿しています。画面右端の西風ゼフュロスがやってくると、フィレンツェは春を迎え、花の神フローラが、地上に花を咲かせます。画面左の三美神は、愛と美と節制を表します。



《世界平和の調律師》

自宅のピアノを調律に来た調律師さんが、世界の独裁者の反省を調律(チューン)している絵です。

教会の中で司祭の祈りが、世界に良い影響を及ぼしています。教会の壁画には、聖像が描かれています。祈りの言葉が、祭壇の司祭に届けられ、ベートーヴェンが幽玄の世界から現れて、意味深な言葉を口にしています。京の公家たちは、蹴鞠に興じ、独裁者たちの反省を見守ります。ガレー船に乗って現れた古代ローマの兵士は、竖琴で優雅な古代の音楽を奏でています。水彩紙の下部では、任務から解放された EU 海軍の水兵たちが、さまざまな気晴らし(遊び)に興じて時を過ごしています。

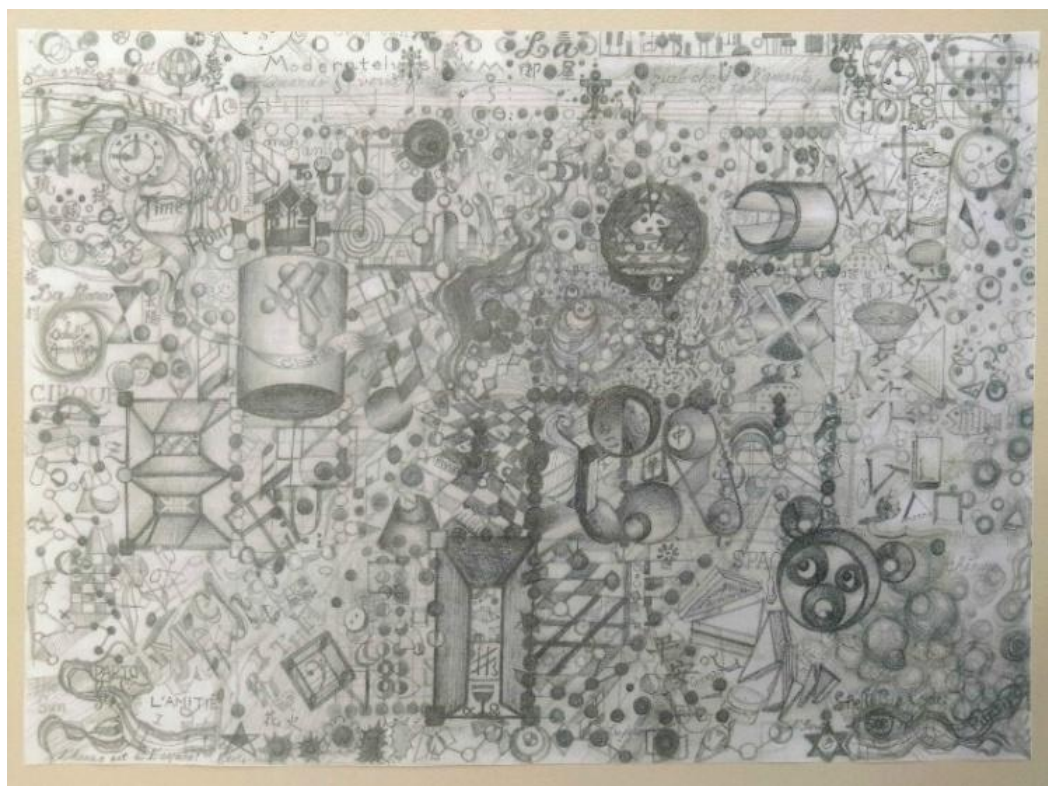
この絵に込めたのは、人類の反省と平和探求の精神です。チューンチューンと、野の小鳥たちが歌うのも、彼らが私たちの心に平和への願いを調節し、植え付けるためでしょうか。



《LA MUSICA DIVERTENTE》

楽しい音楽～ウクライナのために～

この作品は、戦乱・災害・疫病の起こる現代から、だんだん音楽のスコアのように美的で調和に満ちた、楽しく平和な世界へと地球が昇華するさまを描いています。



《日の栄曼陀羅》

ネパールカレーレストランの中の風景です。美しいネパールの民族衣装でギターを演奏している人物を中心に、食事する人々や給仕中のウェ이터、カウンターの内側で休憩中のシェフ、くつろぐ店長とそのワイフ……渦巻模様は、キリスト教以前のケルト美術における原初的なエネルギーの象徴で、ドルイド教の特徴的な文様です。

私は、この作品で、世界の文明の融合と平和共存を描きたいと思いました。絵の中には、ネパール語と漢字と英語で、般若(智慧)、菩提(悟り)、慈悲という文字を、ヒマラヤ山脈のように描きました。こういった言葉は、人類の永遠のテーマであると思うからです。



まとめ

私の美術精神は、花に宿るころのように偽りのない純粋な心を、形態として、絵画や立体造形で表すことです。なぜなら、花に宿るころこそ、愛情と思いやりと真実の心だからです。今後も、私は、京都とパリへの憧れをもって、多彩で知的な遊び(芸術)の美学を融合して、作品を制作していきたいと思います。また、美術家として、大自然の摂理を信じて、21世紀の新文明を創造し、東西文明の融合の一翼を担いたいと考えています。

註

註(1) 国際融合文化学会 新ホームページ 1宗片邦義会長から はじめに(入会のすすめ)から引用しました。

註(2) 本エッセイにおける日本語文の全ての英訳部分には、翻訳補助として生成 AI (Gemini) を使用しました。

付記

作品ウェブサイト(アトリエ・ド・松澤裕之) URL: <https://a100.hatenablog.jp/>